

災害時に自動でON、避難情報受信も

「緊急告知ラジオ」導入

宝塚市や伊丹市 防災体制充実へ

災害時に自動で電源が入り、避難勧告や避難所情報を大音量で受信する「緊急告知FMラジオ」を宝塚市や伊丹市が導入し、福祉施設などに配備し始めた。もととは岡山県倉敷市のコミュニティFM「エフエムくらしき」と「倉敷ケーブルテレビ」が共同開発したもので、ラジオで防災体制を充実させようという試みが広がりを見せている。



配備が始まった「緊急告知FMラジオ」は宝塚市役所で

保育所や特別養護老人ホームなど62施設に貸し出した。

一方「エフエムいたみ」と協力する伊丹市では、10月から無料貸与を開始した。多くの高齢者が犠牲になった阪神大震災を教訓に、一人での避難が困難な高齢者や障害者約1800人を「災害時要援護者」としてリストアップしており、要援護者や災害時に行動を共にするボランティアが貸与の対象。09年度末までに2500台を配備する計画だ。

開発した「エフエムくらしき」の大久保憲作社長は「災害情報を伝えるのにテレビは広すぎ、新聞は遅すぎる。地元が一番密着しているメディアのコミュニティFMが媒体に最適」と自負する。新潟県の三条市や長岡市、愛知県の東海市など約10の自治体が導入しているという。【山田奈緒】